

## 青森県立青森工業高等学校 教諭 小山内 好子

---

10月の事前研修会で初めて会った時、6名の参加者は緊張と不安とで表情が強ばっていました。ぎこちなく、何を話したらいいのかわからないような様子でしたが、研修会で同じ物を食べ、時間を共にするうちに、自然と笑顔が出るようになりました。そして課題に取り組み、意見を擦り合わせていく中で、互いが今回のミッションをクリアするための同士であることを自覚し、少しずつ距離を縮めていったのです。

訪問先であるフランスのグリニャール高校とスウェーデンのヴァッテンファール高校で、自国の文化やエネルギー事情について意見交換をしましたが、同年代の若者の等身大の想いを直接聞くことができたのは、貴重な経験となったはずです。思いがけない質問にも臆せず自分の意見を述べたり、現地の高校生に質問したりする姿に、当初とは比べものにならないほどの成長を感じました。また、オラノ社ラ・アーク再処理工場で研修中の日本原燃の技師の方々との懇談をしましたが、仕事内容や、やりがいなどを伺うことができたことで原子力エネルギー産業に対してより理解が深まったのではないかと思います。SKB社フォルシュマルク中・低レベル放射性廃棄物貯蔵施設とフォルシュマルク原子力発電所PR館では、日本の企業の方とお話をする機会を得て、世界で活躍する日本人の存在に大きく勇気づけられました。

現在、環境問題やロシアによるウクライナ侵攻など、世界は多くの課題を抱えています。そして、そのような状況だからこそ、海外の高校生との草の根レベルでの交流を通して、意見や価値観を共有・尊重し合い、協力してさまざまな問題を解決しようとする姿勢を育むのは、とても重要なことです。今回参加した6名は、この海外エネルギー事情研修会を終えた後も、現地で見たことや感じたこと、学んだことを生かし、これからの日本や青森を担う人材として活躍してくれるでしょう。最後になりましたが、このような素晴らしい機会を与えてくださった青森県商工会議所連合会様をはじめ、この研修会に関わった全ての皆さまに心より感謝申し上げます。